主な記事
ボロ市通り桜栄会100年　2
2025年を振り返る　3
大歓声ティラノレース　4

Shoten-gai NEWS
商店街ニュースN
第1215号
（令和７年）2025年12月5日
（毎月５日発行）
発行所　東京都商店街振興組合連合会
〒104-0061　東京都中央区銀座2-10-18
電　話　03－3542－0231～5
FAX　03－3542－0236
URL　http://www.toshinren.or.jp/
購読料　年間2,500円［送料込み、会費に含む］

受賞者のみなさんはじめ関係者で記念撮影

三軒茶屋銀座(振)の内田氏に個人賞

東京都産業労働局と東京都中小企業振興公社主催の「令和7年度中小小売商業活性化フォーラム」が1月17日、神田明神ホール（千代田区）で開催された。建築史家・陣内秀信氏の基調講演（詳細は2面）と、商店街の優れた取り組みを表彰・紹介する「第20回東京商店街グランプリ」の2部構成。会場には多くの商店街関係者が集まり、各地の事業に高い関心を示した。

東京都中小企業振興公社の中西充理事長の主催者あいさつに続き、来賓の山田昇東京都商店街振興組合連合会理事長が登壇した。

商店街が直面しているデジタル化、消費の多様化、地域人口の変動といった事例を挙げた上で、地域の人と人をつなぐ拠点としての商店街の価値はむしろこれまで以上に高まっていると現状を分析。「街の歴史と文化を継承しながら、新しい時代のまちづくりを考えること。これが私たちの大事な使命ではないかと思います」と述べた。

「第20回東京商店街グランプリ」表彰式では、「商店街の部」「個人の部」で入賞した6事業・1個人が発表された（表）。

応募全23件の中からグランプリに輝いたのは、松江大通り商店街振興組合（江戸川区）の「3りんしゃグランプリによる街づくり」。出場する子どもたちや、OB・OGスタッフの成長の機会となっているとともに、地域の発展と治安維持に寄与していることなどが評価された。

準グランプリは洗足商店街振興組合（目黒区）の影絵街路灯新設プロジェクト「光と影のファンタジー」が受賞した。近隣在住で世界的に著名な影絵作家の協力のもと、オリジナルの中間灯付き街路灯を設置した事業で、SNSを通じて商店街の認知度が高まり、新規顧客獲得や組合への新規加入につなげた取り組みが評価された。

商店街振興への貢献が顕著な人を表彰する「個人の部」は、三軒茶屋銀座商店街振興組合の理事・青年部長の内田巨峰氏が受賞した（写真）。イベントの運営や広報活動に尽力していることや、世田谷区商店街連合会青年部の部長として青年部員の結束力強化に貢献した活動が評価された。

関口尚志東京都産業労働局次長は祝辞で「地域の価値と力を高める数々の取り組みに感銘を受けた。商店街の役割を都民に伝える機会になればと思う」と述べた。

《受賞した商店街と事業名》

グランプリ	3りんしゃグランプリによる街づくり
	松江大通り商店街振興組合〈江戸川区〉
準グランプリ	洗足 影絵街路灯新設プロジェクト「光と影のファンタジー」
	洗足商店街振興組合〈目黒区〉
優秀賞	第27回新橋こいち祭
	第27回新橋こいち祭実行委員会〈港区〉
	みんなに優しい商店街・笹塚十号のいえ
	十号通り商店街振興組合〈渋谷区〉
	トゥクトゥクに乗って わくわく買い物サポート
	方南銀座商店街振興組合〈杉並区〉
特別賞	野方お笑い総選挙２０２４
	野方商店街振興組合〈中野区〉
個人賞	内田 巨峰　氏
	三軒茶屋銀座商店街振興組合 理事・青年部長〈世田谷区〉

第20回東京商店街グランプリ

大賞は松江大通り(振)

都振連

防災に関する意識調査
（商店街事業所勤務者対象編）

災害時支援に高い意欲
ブロック別にデータ分析

東京都商店街振興組合連合会は今夏、都内商店街の事業所勤務者を対象に「防災に関する意識調査」を実施した。この調査により、商店街側は災害時の共助に高い意欲を持っていることや、東京都の「商店街防災力向上緊急支援事業」を「良い取り組みである」と高く評価していることが分かった。

この調査は、「令和7年度商店街活性化推進調査・研究事業」に基づき、設置された研究委員会がまとめたもの。昨年度の地域住民を対象とした調査で「自宅で防災対策をしていない方が60・6％」という結果や、「近くの商店街に災害対策の補完機能があった方が良い」との回答が66・9％に上ったことを受け、住民の期待に対する商店街側の実態や意識を把握するために実施された。東京都の全商店街の地域ブロック別分布割合とほぼ同等に調査対象者を設定し、1430人の回答を得た。

災害不安と共助支援

大雨による下水・排水溝の内水氾濫や浸水、土砂崩れなどの災害不安を感じるか、という設問に対し、「不安を感じる」との回答は全体で47・8％だった。これは昨年度の住民調査の45・1％とほぼ同水準となっており、特に中央・城北・城東・城南ブロックは全体を上回る結果となった。

商店街や商店街の事業所が共助の観点から、災害時に地域の被災者や帰宅困難者の支援を行うという考えについては、「積極的に支援すべき」「可能な範囲で支援した方が良い」と回答した人が、全体で81・5％に上った。これは、昨年度の住民調査における「商店街に支援・補完機能があった方が良い」（66・9％）という住民の期待を大きく上回るもので、商店街側が地域の防災協力に前向きな姿勢であることが分かった。

具体的支援と協力体制

支援を行うとしたらどのような方法が可能かを聞いたところ、「店舗や事業所の設備やインフラの提供」（73・9％）が最も高く、次いで「飲食物、生活支援物資の提供」（60・2％）、「被災者や帰宅困難者への場所（駐車場など）の提供」（49・4％）という結果だった。昨年度の住民調査の参考値（設備68・9％、物資49・0％、場所39・3％）と比較して、いずれの項目も商店街側の回答が上回った。

また、住民の防災対策の一助として、商店街が協力した方が良いと思うことについては、「防災グッズ・防災マップの配布」（56・4％）と「防災設備の周知」（53・1％）が半数を超えた。

財政支援と支援事業評価

共助のために商店街や事業所が負担した費用を、自治体が助成（補助金や現物支給）する支援制度が必要だと思うか、という設問に対しては、「とても必要」「ある程度必要」との回答が全体で73・2％に達した。

東京都の「商店街防災力向上緊急支援事業」についての評価では、「良い取り組みである」との回答が90・5％に上り、全ブロックを通じて90％程度の高い評価を得た。また、「補助内容や補助上限額の見直し検証が必要」が88・3％、「備蓄品の保存期間に合わせ、定期的（5年ごと）に実施した方がよい」が87・9％と、いずれも設問への高い同意を示す結果となった。

10月30日には山田昇理事長への調査結果報告会が実施された（写真）。山田理事長は委員への感謝を述べた後、「分かりやすくて大変説得力のある内容でまとめられている。商店街の必要性を住民の皆さんも改めて認識してくれると思う」と評価。その上で、「このデータを各区市との打ち合わせなどで活用してほしい」と話した。

調査結果の詳細は、都振連ホームページ（QRコード）で確認できる。

賀詞交歓会
1月7日（水）

東京都商店街振興組合連合会と東京都商店街連合会は、合同新年賀詞交歓会を2026年1月7日（水）午前11時から、新宿区西新宿の京王プラザホテルで開きます。

会費は1人1万2千円です。

ぜひ、ご参加ください。

TOSHINREN-information

魅力ある街づくりのためには
“振興組合化”から！

■振興組合設立のためには？
振興組合を設立するためには、発起人が７人以上おり、次の３つの要件を満たすことが必要です
①小売商業、サービス業を営む者が 30 人以上近接して商店街を形成していること
②他の商店街振興組合の地区と重複しないこと
③その地区内の組合員有資格者の２／３以上が組合員となり、かつ、総組合員の１／２以上が小売商業またはサービス業であること

■振興組合設立のメリットは？
①人的なまとまりが強くなり組織力が強化されます
②組合運営および会計が明確化され新規加入促進につながります
③法律に基づく法人であるため、社会的な信用が高まります
④国や都、区市など行政の助成金や施策が活用できます

詳しくは 東京都商店街振興組合連合会 組織課へお問い合わせください　TEL：03(3542)0231